

事務・事業評価書

		所属	福祉課保育園			作成者	宮澤 薫					
事業コード	30204 -	事業名	中札内保育園業務費			<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続						
		(細事業名)										
① まちづくり計画での位置付け	編	2. 健康で人にやさしいまち										
	章	1. 生涯福祉の推進										
	節	2. 子育て支援の充実										
① まちづくり計画での位置付け		<input checked="" type="checkbox"/> 記載あり <input type="checkbox"/> 記載なし 1. 少子化・子育て支援対策 (2)関係機関の連携により「家庭支援」の強化を図ります。 (3)保育園は、子どもが自ら行動できる基礎を培えるよう、保育内容の見直しを行います。 (5)保育ニーズの把握と「認定子ども園」への移行を検討します。 (9)養育能力の低下から児童虐待となるケースが増えていることから、児童の養育に関する相談体制や要保護児童対策地域協議会の機能強化を進めます。										
参考	村長公約での位置付け	番号	2	健やかにみんなで支えあう福祉の村づくりを進めます								
		細項目	④	子育てしやすい環境づくり、保育環境の整備								
② まちづくり計画の「めざすべき目標(数値目標)」と進捗状況	項 目		現状値	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H29目標値				
	安心できる子育て環境満足度		64%					70%				
	保育サービスに対する保護者満足度		78%					80%				
③ 事業の概要		中札内きらきら保育園で、保育を行うための経費										
④ 事業の内容	事業内容			H26実績	H27実績	H28実績						
	保育士賃金			47,362千円	56,999千円	54,815千円						
	旅費			206千円	349千円	338千円						
	賄材料費			8,571千円	9,645千円	9,469千円						
				千円	0千円							
				千円	0千円							
この事業の決算額等			決算額	57,880千円	70,173千円	73,214千円						
			うち一般財源等	千円	0千円							
			国・道補助	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (国 / 、道 /)								
⑤ まちづくり計画の数値目標等で表せない事業成果												
⑥ 事業の評価	コスト		効果と目的達成度		住民要請・要望度		緊急度・必要性		改善点		先見性・将来性	
		10 低い	○	10 高い		10 高い		10 高い		5 全くない	○	10 高い
	○	7 やや低い		7 やや高い	○	7 やや高い	○	7 やや高い		3 少ない		7 やや高い
		4 やや高い		4 やや低い		4 やや低い		4 やや低い	○	1 多い		4 やや低い
		1 高い		1 低い		1 低い		1 低い				1 低い
											合計	42
⑦ 住民や民間との役割分担		<input type="checkbox"/> 行政が行わなければならない <input checked="" type="checkbox"/> 行政が行うべきだが、住民や民間で対応が可能 <input type="checkbox"/> 住民や民間が行ったほうが効果的 <input type="checkbox"/> 既に住民主体で実施又は民間委託済み			左の理由		現在における保護者の意向から「保育園依存型」が多く、将来における家族の役割を考えた時に不安を感じる。このことから、本村では安定した保育を提供していくために、民間導入は難しいと判断する。しかしながら、民間移行になれば民間ならではの取り組みも考えられ、保護者との連携と行政のバックアップによる民間移行は可能と考える。					

■前年度(平成27年度事業)の評価結果

<p>⑧ 前年度の課題・問題点と改善の方向</p>	<p>《課題・問題点》 ■保育業務について ・今まで行ってきた「管理する保育」から「見守り保育」へ実践してきたが、どうしても行動が遅くなる園児に対して、自らの行動を見守るのではなく、次の行動に支障をきたす場合は保育士からの指導や指示を行っている。 ・近年、配慮を必要とする子どもが増えているとともに、子育てに対してむきあえない利用者(保護者)も増えてきている。 ・0歳6カ月の子どもから保育を行っており、その時期から預けようとする利用者が増加傾向にあるが、ひよこ組(0、1歳児クラス)の状況を総合的に考えると0歳児の受入れは4名が限度としている。</p> <p>《改善の方向》 ■保育業務について ・引き続き、園児が健康で生きる力をつけるための身体づくりや自分自身で行動できる人間に成長を考えた取り組みが必要である。保育園の立地条件を考慮し、年齢に応じてどこまで散歩するのか、各担当が工夫することが求めている。また、散歩の効果として交通安全や自然の中で色々なものの発見、人間関係(信頼、友情)など多くのことが得られるよう取り組んでいく。 ■地域住民の協力について ・平成26年度から行っている食育サポーター等の協力による食育事業が、園児の好き嫌いの克服や野菜づくりの関心を深めることにつながっているため、引き続き食育推進を図っていく。 ・地域のおじいさんとおばあさんの協力をいただき、コマ回しやけん玉、竹とんぼなど脳の発達に役立つ手先を使う遊びを、引き続き行っていく。また、協力してくださる方には、運動会や生活発表会の総練習に招くなど、保育園との関わりや親しみをより深いものにしていく。</p>
---------------------------	---

■平成28年度の取組みと課題・問題点に対する方向性

<p>⑨ 平成28年度の取組み</p>	<p>■認定こども園への移行について ・H29年度からの認定こども園移行に伴い、「保育園内・課内での協議」「管内こども園見学」等により検討を行ってきた。 ・教育的な要素や新カリキュラムの導入では、近年において子どもたちの「体力の無さ」や「体幹の弱さ」が目立つほか、ちょっとした事で怪我をし易いなどがあり、早急に対処すべきと考え「外部講師による運動遊び」を計画し試行を実施している。また、導入するうえで必要となる運動道具については、補正予算を追加し購入している。 ・教育標準認定(1号認定)の「長期休み」の導入や「保育時間」の設定等は、保育認定(2号認定)との格差をつけず設定内容としている。 ・移行に伴い発生する変更点等について、保護者説明会を2回開催し保護者への周知を行っている。(経過説明10月、最終説明2月)</p> <p>■行事の日程について ・保護者などの要望から、運動会(日曜開催)、生活発表会(日曜開催)、修了式(平日開催)の曜日変更について、アンケートを実施した結果、意見が多かった土曜開催へ変更することとした。また、「運動会」「生活発表会」は、振替希望保育を無くし対応することとしている。</p> <p>■保育内容の充実について ・保育士から遊びを提供する保育ではなく、園児自らの発想で自主的な活動を促す「見守る保育」を実践してきている。保育内容の転換として、「与えるばかりの保育から考えて行動できる保育へ」、「満足できる遊びの充実を考えた保育時間の設定」、「身体を使った遊び等の充実」などを行い、友だちとの関係づくりや大人との信頼関係を築くことに取り組んでいる。</p>
<p>⑩ 課題・問題点</p>	<p>■認定こども園への移行について ・移行後に「運動遊び」を取り入れた事の効果と総括と、取り組みの継続・拡大・縮小など、翌年度以降の在り方を合わせ検討する。 ・移行による変更点(保育認定区分・夏休み・土曜保育の取り扱い等)について、保護者に十分理解してもらう必要がある。</p> <p>■教育・保育目標等の見直し ・教育・保育要領の改定に準じた見直しを図るとともに、本村独自の特色ある内容を取り入れ、子どもに寄り添い発達を促す目標とする。</p> <p>■行事の日程について ・運動会の土曜開催による、前日準備(日曜開催時は土曜日に保護者のお手伝いをいただいていた)や当日の運営方法などの再構築。</p> <p>■保育業務について ・近年において増加傾向にある、配慮を必要とする子どもや子育てに向き合えない保護者への対応。</p>
<p>⑪ 今後の取組み・方向性</p>	<p>■保育業務について ・引き続き、園児が健康で生きる力をつけるための身体づくりや、自分自身で行動できる人間に成長を考えた取り組みが必要である。そのため、保育園の立地条件や周辺環境を考慮し、年齢に応じてどこまで散歩するのか、各担当が工夫することを求めている。また、散歩の効果として交通安全や自然観察、人間関係(信頼、友情)など多くのことが得られる取り組みを進めていく。</p> <p>■食育事業について ・平成26年度から行っている食育サポーター等の協力による食育事業が、園児の好き嫌いの克服や野菜づくりへの関心を深めることにつながっているため、引き続き推進を図っていく。 ・前年は、村管理栄養士による講演「食育事業の取り組みと子どもの食育について」を行っているが、平成29年度以降は七色献立プロジェクトの事業で外部講師による講演を予定しており、更に充実した食育事業を子どもだけでなく保護者を巻き込んだものとしていく。</p>

■評価(村長評価・村民評価・最終評価)

<p>⑫ 村長ヒアリングによる評価結果</p>	<p><input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止・廃止</p>
<p>⑬ 村民評価(総合行政推進委員会)による意見</p>	
<p>⑭ 評価の最終結果(新年度予算の方向)</p>	<p><input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止・廃止</p>

事務・事業評価書

		所属	福祉課保育園			作成者	押切 典子					
事業コード	30215 -	事業名	子育て支援事業費			<input type="checkbox"/> 新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続					
		(細事業名)										
① まちづくり計画での位置付け	編	2. 健康で人にやさしいまち										
	章	1. 生涯福祉の推進										
	節	2. 子育て支援の充実										
① まちづくり計画での位置付け		主要な施策・事業に記載の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 記載あり <input type="checkbox"/> 記載なし 1. 少子化・子育て支援対策 (1) 子育て支援センターの担うべき役割を明確にし、子育て支援の充実に努めます。 (2) 関係機関の連携により「家庭支援」の強化を図ります。 (9) 養育能力の低下から児童虐待となるケースが増えていることから、児童の養育に関する相談体制や要保護児童対策地域協議会の機能強化を進めます。									
参考	村長公約での位置付け	番号	2	健やかにみんなで支えあう福祉の村づくりを進めます								
		細項目	④	子育てしやすい環境づくり、保育環境の整備								
② まちづくり計画の「めざすべき目標(数値目標)」と進捗状況	項目		現状値	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H29目標値				
	安心できる子育て環境満足度		64%					70%				
③ 事業の概要	育児負担の解消を図り、児童福祉の増進と子どもの健全育成を推進する経費											
④ 事業の内容	事業内容			H26実績	H27実績	H28実績						
	臨時保育士賃金			2,103千円	2,953千円	2,661千円						
	講師謝礼			145千円	145千円	185千円						
	研修旅費			41千円	47千円	40千円						
	教材消耗品費			67千円	134千円	140千円						
				千円	0千円							
この事業の決算額等			決算額	2,478千円	3,674千円	3,258千円						
			うち一般財源等	千円	0千円							
			国・道補助	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有	(国 / 、道 /)							
⑤ まちづくり計画の数値目標等で表せない事業成果												
⑥ 事業の評価	コスト		効果と目的達成度		住民要請・要望度		緊急度・必要性		改善点		先見性・将来性	
	○	10 低い		10 高い		10 高い		10 高い		5 全くない	○	10 高い
		7 やや低い	○	7 やや高い	○	7 やや高い	○	7 やや高い		3 少ない		7 やや高い
		4 やや高い		4 やや低い		4 やや低い		4 やや低い	○	1 多い		4 やや低い
		1 高い		1 低い		1 低い		1 低い				1 低い
										合計	42	
⑦ 住民や民間との役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 行政が行わなければならない <input type="checkbox"/> 行政が行うべきだが、住民や民間で対応が可能 <input type="checkbox"/> 住民や民間が行ったほうが効果的 <input type="checkbox"/> 既に住民主体で実施又は民間委託済み			左の理由	近年、配慮を必要とする子どもや子育てに向き合えない保護者が増えている状況があり、早期発見・早期療育を行うため、情報収集(母子手帳交付、出生届、転入者の把握)が不可欠で保健師と保育士等との連携が必要である。公立の場合は横との連携が図りやすいとともに、子育てについて園児以外の相談もあることから、民間では連携が難しいことが予想される。							

■前年度(平成27年度事業)の評価結果

<p>⑧ 前年度の課題・問題点と改善の方向</p>	<p>《課題・問題点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■子育て支援及び指導 <ul style="list-style-type: none"> ・子育てにむきあえない要支援家庭に対して、支援センター事業の際に適宜、アドバイスや指導をしているが、保護者には伝わらない状況があり、どのように子育て等について助言し伝えるかが課題である。(子育ては行政が行うものと勘違いしている保護者もいる。) ・子育て支援事業や子育てサークル等の参加に前向きでない親子に対して、同じ子育ての悩みを抱える保護者との関係づくりをどのように構築していくか、また保護者自身の子育てに対する向き合い方や、どのようなことが大切であるかなどを伝えていく方法が課題となっている。 <p>《改善の方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、子育て支援事業を展開し、母親のリフレッシュや親子の様子について確認を行う。 ■家庭への訪問支援及び子育てに対する指導 <ul style="list-style-type: none"> ・保健師との連携を密にし、子育てに向き合うことのできない保護者の家庭に定期的に訪問して、子育てに対する指導や遊びを提供。 ・子育て支援事業に来園した親子に対して、親子の遊びやふれあいの様子を確認して、適切なアドバイスや指導の実施。 ・子育てサークルの集まりで、小学生以上のきょうだいを持つ子育ての先輩との関係づくりを構築。 ■一時保育について、8:15から17:15までの必要とする時間の預かり保育を継続。(有料) ■前年度より始めた「給食試食会」は好評であったため、保育園調理担当と連携を図りながら回数の増加を検討する。 ■乳児期の「親子ふれあい遊び」について、生後2ヵ月到達児への案内を追加し実施回数を増加する。
---------------------------	---

■平成28年度の取組みと課題・問題点に対する方向性

<p>⑨ 平成28年度の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■子育て支援センター事業の継続及び拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・「びよびよの日」、「げんきの日」、「なかよし広場」、「ファミリー広場」、「親子で遊ぼう」、「リフレッシュサロン」の開催。 ・新たに「ちびちびの日」を設け、より利用しやすい形になるよう、回数を増やし年齢区分の変更を行った。 ■家庭への訪問支援及び子育てに対する指導 <ul style="list-style-type: none"> ・保健師と連携協力をし、子育てに向き合うことのできない保護者の家庭に訪問して、子育てに対するアドバイスや遊びの提供を行った。 ・保健師、保育園との間で、要支援家庭の情報共有を行っている。 ・子育て支援事業に来園した親子に対して、遊びや声かけなど子どもに対しての関わり方を確認して、適切なアドバイスを行った。 ■一時保育 <ul style="list-style-type: none"> ・従来どおり、8:15から17:15までの必要とする時間の一時保育を行った。(有料) ■給食試食会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から継続し、保育園調理担当と連携を図り、次期入園者や保育園保護者に対して、食の大切さや関心を持つことを目的に「給食試食会」(有料)を実施した。 ■乳児期における親子ふれあい遊びの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期の前倒しにより、母体と心のケア・親子の関わりを早めに把握している。
<p>⑩ 課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■子育て支援及び指導 <ul style="list-style-type: none"> ・子育てにむきあえない要支援家庭に対して、支援センター事業の際に適宜、アドバイスをしているが、保護者には伝わらない状況があり、子育て等について助言し伝えるかが課題である。(子育ては行政が行うものと勘違いしている保護者もいる。) ・核家族化が進む中で、父親の子育て参加の在り方などをどのように伝えていくかが今後の課題といえる。 ・子育て支援事業や子育てサークル等に出向くことのできない親子に対して、参加を促し同じ子育ての悩みを抱える保護者との関係づくりをどのように構築するか、どうしても出向くことができない親子に対しては、保健師の協力を得る中で、子育てに向き合うことの大切さを伝えられるかが課題である。
<p>⑪ 今後の取組み・方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、子育て支援事業を展開し、母親のリフレッシュや親子の様子確認を行う。(継続) ■家庭への訪問支援及び子育てに対する指導(継続) <ul style="list-style-type: none"> ・保健師と連携協力をして、子育てに向き合うことのできない保護者の家庭に定期的に訪問して、子育てに対する指導や遊びの提供。 ・子育て支援事業に来園した親子に対して、親子の遊びやふれあいの様子を確認して、適切なアドバイスをしていく。 ■一時保育について、8:15から17:15までの必要とする時間の預かり保育。(継続) ■2年間継続し、とても好評だった「給食試食会」を、保育園調理担当と連携を図って実施する。 ・給食と同様に「おやつ試食会」を実施。 ■父親の育児参加における情報共有の機会や父親同士の交流の場をつくる。

■評価(村長評価・村民評価・最終評価)

<p>⑫ 村長ヒアリングによる評価結果</p>	<p><input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止・廃止</p>
<p>⑬ 村民評価(総合行政推進委員会)による意見</p>	
<p>⑭ 評価の最終結果(新年度予算の方向)</p>	<p><input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止・廃止</p>